

## トップコミットメント



京都大学総長

尾池 和夫

2007年は、京都議定書が採択されて10周年、そして持続可能な発展の概念を提示した「ブルントラント委員会報告」が発表されてから20周年の記念すべき年でした。2007年6月にドイツのハイリゲンダムで開催された主要8カ国首脳会議（G8サミット）においても、地球温暖化が人類社会の将来を脅かす最も重要なテーマとして議論されました。

地球温暖化に代表される地球環境問題の解決に向けた総合的な取り組みの重要性は、近年ますます増大しています。人類が自ら引き起こした自然の変化の中で、はたして生き残れるかどうか、そのわかれ道に立っているのが21世紀であると私は認識し、人類の未来のことを考えながら教育と研究に取り組んできました。

その取り組みの基本的な考え方が「京都大学基本理念」には書き込まれています。そこには「自由の学風」、「多元的な課題の解決」、そして「地球社会の調和ある共存」という言葉が使われています。これらは21世紀の世界の基本的な考え方に結びつく言葉であると思います。持続可能な社会のためには、まず地球社会の調和ある共存を目指すことが必要です。地球社会の調和ある共存を目指すには、自然環境を無視することはできません。京都大学は、世界的に卓越した知の創造とその継承、創造的精神の涵養に努めることで地球社会の調和ある共存を目指しています。

京都大学は、日本全体の二酸化炭素排出量の約1万分の1を排出しています。地球社会の調和ある共存のために、これは近い将来必ず減らさなければなりません。その他にも多くの環境負荷をかけながら大学が運営されています。その削減のための知恵と行動を解説したのが本報告書です。ここには、京都大学の環境負荷削減活動の基本的な考え方を示して策定した「京都大学環境計画」のほか、環境賦課金などのトピックスも掲載しました。

京都大学の環境配慮活動について、さらなるご指導、ご支援がいただけましたら幸いです。